研究教員テーマ検討会

はごろも学習センター　宜野湾市立教育研究所　R2.10.28

幼稚園

友達と協力して表現する楽しさを味わうための援助の工夫
-児童文化材を活用したごっこ遊びを通して-

はごろも幼稚園　教諭　山口ルミ

近年、幼児の人と関わる力を育てていくことが求められています。はごろも幼稚園4歳児の実態として、気持ちが穏やかで、やりたいことを見つけて楽しむ子が多いのですが、関わりの中でトラブルが生じた際、手が出てしまったり、泣いてしまう等、自分の気持ちに折り合いをつけたり、我慢をする等の気持ちを合わせたり調整する力の弱さが見受けられます。そこで本研究では、友達と協力して表現する楽しさを味わうことができるようになるための援助の工夫として、絵本や紙芝居等の児童文化財を活用したごっこ遊びを進めていきます。

その中で、幼児期にふさわしい遊びや表現活動を体験し、進めていく過程で幼児なりのやり方で試行錯誤を繰り返すことで幼児同士の関わる力を育てていこうと考えています。

小学校

主体的に学び、自己の考えを深める道徳科の授業づくり
-多様な考えをつなぐ発問構成の工夫を通して-

志真志小学校　教諭 又吉和華

「小学校学習指導要領　特別の教科　道徳編」では、様々な社会の変化や課題に対応していくためには、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることがこれまで以上に重要であり、こうした資質・能力の育成に向け、道徳教育は大きな役割を果たす必要があると述べられています。

そこで本研究では、教師が、自分自身の道徳科の授業の課題として捉える「交流の場が児童相互の思考を練り合う場になっていない」ということに焦点をあて、教師が児童の多様な考えを引き出し、つなぐ発問構成の工夫を通して、児童が主体的に学び、自己の考えを深めることができると考え、本テーマを設定しました。

半年間の研修で、道徳科で目指す「深い学び」とは何かまた、主体的な学びや多様な考えをつなぐことを意識した授業づくりをしていくための手法や土台づくりを学んでいき、学校現場において成果を還元できるよう努めていきます。

中学校

自主的、実践的によりよい人間関係を育む学級活動の工夫
-「伝える力・聴く力」を高める話合い活動を通して-

普天間中学校　教諭 野島 崇

学習指導要領の改訂に伴い、特別活動において「人間関係形成」の視点が重要視されています。さらに学級活動では、自己や学級の課題を解決するために話合い活動を通して合意形成、意思決定をすることができる資質・能力の育成が求められています。

そこで、本研究では、学級活動において生徒一人一人が主体的・対話的に「伝える力・聴く力」を高め、活動することで、話合いが活性化し、自主的、実践的によりよい人間関係を築こうとする態度が育まれるであろうと考え、本テーマを設定しました。

半年間で可能な限り知見を広げ、これまでの自分の経験も交えながら多面的、多角的な見方を養い、また、ここで学んだことを現場に戻り成果を還元できるような教師力をつけるために日々を大事にしながら精進していきたいと思います。

当教育研究所では次の5つのキーワードに基づき研究を進めています。

- 1つ目に「オリジナリティ」です。理論研究、実践研究を通して、小さな発見でもいいので、自分なりのアイデアを出し工夫することが大切です。
- 2つ目に「時代を読む」です。新学習指導要領を見据え、今何が求められているのか把握し、県の「学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ」との整合性を図りつつ、本市の課題または学校現場で困っていることを解決するための手立てを探ることです。
- 3つ目に「還元性と日常性」です。自分だけの研究に留まることがないように他の教師にも役立ち波及することを意識し、日々の授業で実践可能なことを取り上げ、敢えて特別なことをやろうとしないことです。
- 4つ目に「文章への責任」です。書き手の一方的な文章ではなく、読み手を意識した文章にすることを心がけ、文章の出所（著者名、書名、出版社、出版年引用頁等）をしっかり記入することです。
- 5つ目に「ほう・れん・そう」です。学校でも同様で、報告・連絡・相談を密にしながら、個人でなく組織で連携し、研究を進めることがよりよい効果を生むことになります。

※ 研究教員の先生方には、あせらず、計画的、継続的に、わかることへのこだわりを持って取り組んでいただきたいと思います。

研修係長　西　康 勝